●町田市
こころみ農園

町田市は、「東の町田、西の豊中」と称されるほど、障がい者福祉の先進地として全国に知られています。まだバリアフリーという概念すら、一部でしか知られていなかった当時、すでに「緑豊かで車いすで動けるようなまち」を目指して、障がい者や高齢者に配慮したまちづくりを推進していました。

平成21年5月1日現在、市内に民間運営の施設が大小合わせて約50あります。その中で、「農」の要素をもった福祉施設、福祉作業所も「こころみ農園」の他に4施設（まちだ福祉作業所、大賀ハス館、花の家、畑の家）あり、通所者も合計で155名となっています。

「こころみ農園」は、在宅の心身障がい者の働く場を設置する目的で、昭和52年に開園しました。当時、町田市内には心身障がい者が通う施設は少なく、「こころみ農園」は、町田市で運営する初の障がい者施設でした。開園当初、周辺地域にシイタケ栽培をする農家が多く、ホダ木200本をいただき、1年指導を受けたのがきっかけでした。現在も植菌から販売までを行っています。

シイタケは、「七国（ななくに）シイタケ」としてブランド化され、評価は高く、良く売れています。現在、野菜を近隣農家から仕入れ販売している他、新商品の開拓に向けてブルーベリーの試作も行っています。利用者数は14名（男性のみ）で平均年齢は40歳。

さらに運営の特徴としては、「七国山」を中心に、周辺のダリア園、リス園等と共に産業観光化を進めていること。地域住民との関わりも大切にし、もちつき大会等住民を呼び、交流する場を積極的に設けていることが上げられます。

農業がさかんな当町としても今後、「農」と福祉を結びつけた施策が必要であると強く感じました。

こころみ農園内のホダ木

●長久手町
ふれあい農園

長久手町では、平成11年第4次長久手町総合計画の主要プロジェクトとして「長久手田園バレー構想」を作成しました。ふれあい農園は、農産物直売所、地域食材加工提供施設、農業交流館等の交流施設の中の一つとして設置されました。

平成17年、愛知万博が開催され、平成19年、その跡地に農産物直売所、加工体験室、レストラン凛、ふれあい農園などを含む、長久手町田園バレー交流施設「あぐりん村」が完成。4月から、「NPOかわせみ」が「ふれあい農園」の利用を開始しました。

「NPOかわせみ」の理念は、障がいの有無にかかわらず、全ての人が自分らしい役割を持って、安心して暮らせるまちづくり。障がい者の地域生活の支援を目的に、ふれあい農園で野菜苗作りと販売、畑での作業、パン作り、カフェ事業・駄菓子販売等の事業を実施しています。

●事業の推移

当初は、カゴメとタイアップしたトマトを生産。その後、田園バレー事業課からのアプローチによって温室の有効利用を開始。温室を利用して花苗の生産を予定していましたが、産直所の野菜売上アップを目的に、出荷農家への野菜苗の生産に変更。

品種は、キャベツ、ブロッコリー、レタス等のセル苗、パセリ、ハーブ類の苗。また、季節としては春、秋は忙しいが、それ以外の忙しくない時のために、温室を利用した大葉、ほうずきトマト、ルッコラ、サヤエンドウの生産も開始。利用者17名、賃金は、5000円～8000円（月）ボーナス年2回。

障がい者の就労支援、自立支援に農業を取り入れるには、先ず農業者の現状、遊休地の実態、就労希望者の把握、協力態勢等々の調査が必要です。さらには、NPOかわせみのような市民団体の育成、支援も求められます。そうした土壌を三芳町でも、少しづつ作っていきたいですね。

ふれあい農園ハウス内で説明を受ける